

## 第4学年 社会科・総合的な学習の時間 学習指導案

橋本市立三石小学校  
指導者 五十川 純輝

### 1 単元名

「和歌山の鳥メジロから～鳥獣保護法を学び活かせること～」

### 2 単元目標

- ・自然環境を守るために鳥獣保護の果たす役割や、人々との生活とのつながりについて理解する。【知識・技能】
- ・鳥獣の保護を図り生活環境の保全について考える。【思考・判断・表現】
- ・鳥獣の保護に興味をもち、そこでの事業について調べ自分たちにできることを考える。【主体的に学習に取り組む判断】

### 3 評価規準

ア知識・技能	イ思考・判断・表現	ウ態度
鳥獣保護が果たす役割に関して理解する。様々な生態系が存在し差異が生じることを理解する。	生物の多様性の保護について考え、野鳥と人との共存する社会を目指して考え行動することができる。	生物の保護に興味を抱きながら資源についても考え行動することができる。

### 4 教材について

本単元では、「わたしたちが住んでいる県」から和歌山県の県の鳥「メジロ」について教材化する。メジロは日本特有の小鳥で、和歌山県に多く、古くから県民に親しまれている鳥である。名前の由来にもなっている目の周りの白い縁取りが特徴的で、英語でも「white-eye」と呼ばれている。ウグイスと共に春の訪れを知らせる鳥として親しまれているが、見かける時期と場所が重なるのでウグイスと間違われることが多い。ウグイスは警戒心が強い。そのため「ホーホケキョ」と鳴く鳥はウグイスであるがメジロと勘違いしてしまうこともある。橋本市ではミカン畑や柿を吊るしているといつのまにかメジロがやってきて美味しそうについばむ姿が見られることもある。

しかし和歌山県の自然環境は、拡大造林政策による自然林の人工林化、開発や河川改修などによる湿地環境の激変、農薬の使用による生物の死滅など、多くの野鳥が生息環境を失い、また餌の減少に直面して、個体数を減少させた。特にタカやフクロウなど、生態的上位種に大きな影響が出ている。これまで、メジロに限り愛玩のための飼育目的での捕獲として1世帯1羽の決まりで飼育することが可能であったか、特別な理由を除き飼育目的での捕獲を原則として許可しないこととなった。

自然は多種多様な生物や無機的環境によって形作られている。生物間では食べる食べられるという食物連鎖の関係がある。メジロを保護することは、ただ単にその生物を保護するのではなく自然全体を保護することにつながる。こうして守られてきた自然は、きれいな空気と水と共に私たち人間にとっても必要な環境である。

## 5 児童観

本学級の児童はこれまでに第2学年では、学校区を探検し身近な昆虫や植物に触れる活動を行った。また理科では1年間の生き物について調べ、生き物が季節によって生態が変化していることについて学んだ。三石小学校では、ビオトープやメダカストリート、水族館といった学校の特色もあり、自然の生き物を直に触れることができる。しかし、野鳥への関心が比較的薄い。メジロについてもウグイスと間違える児童も多かった。そこでメジロを通して鳥獣保護に触れ、自然環境に少しでも関心が抱く工夫を行う。

## 6 指導観

本単元では和歌山県の県の鳥であるメジロについて興味関心をもち、愛玩として飼育することができないといった事実から、和歌山県の自然環境について問題解決的な学習を通して、ある特定の生物を守ることは多種多様な生物も守ることができることを実感させたい。そこでメジロの飼育を行うためには県または、市町村の許可が必要である。よって飼育するのではなく、メジロが訪れやすい環境づくりを中心に子どもたちが考え話し合う活動を行う。人工林を増やしすぎないためにできることは何かあるか考える。

## 7 ESDの観点

- ・相互性：鳥獣保護と森林保護の関わりに気づく  
きれいな空気と水との関わり  
県の産業であるミカン栽培・柿栽培、梅栽培との関わり
- ・公平性：メジロのいる環境を引き継ぐ

## ○価値観

- ・自然環境との関わり・コミュニケーション能力

## 単元指導計画

時	主な学習活動	学習への支援	評価
1	和歌山県の鳥「メジロ」について知ろう。	県鳥であるメジロについて考える。ウグイスとの違いなど。	ワークシート 知識・技能
2	鳥獣保護について知ろう。	鳥獣保護法について考えメジロの飼育は禁止されていることについて問会える。	ワークシート 知識・技能

3	鳥獣対策室の人に話を聞こう。	和歌山県鳥獣保護対策課の方をゲストティーチャーとして招き、質問をする。	思考・判断
4	保護した生き物について正しい知識をもつ。	和歌山県鳥獣保護対策課の方をゲストティーチャーとして招き、質問をする。	思考・判断
5	目白押しな巣箱づくり	地域の方に使用しない木材等を集める。 みかんや柿を地域の方々にたのみ頂く。	態度
6	天然林と人口林について学習	人口林と天然林のメリットをデメリットを考える。外国産の植林についても取り上げる。	思考・判断
7	メジロを守ることでつながること。	愛鳥週間ポスター等 自らが伝達者となる取り組みを行う。	態度

○予想される取り組みの結果

- ・4月にメジロが訪れ、学習し来年の3月に再びメジロが訪れるとなると1年間のゴールが見やすくなる。主体的に子どもたちが巣箱づくりに取り組みことが可能となった。
- ・みかんや柿をつるす、ウメの花が校内にあればメジロが訪れやすい。
- ・学校では生態系上位の生き物の線引が低くなってしまう。  
【メジロを捕食するムクドリやタカ、フクロウ等】について悪い生き物という印象を抱かせてはいけない。鳥獣被害とのバランスが難しい。
- ・ある特定の生き物を守るためにはその他の生き物や環境も守らないといけないという考えをもつ児童が増えた。
- ・国産のメジロを飼育することは行政機関の許可が必要であるが今回は飼育しないことで進んだ。
- ・愛鳥週間ポスターにも意欲的に取り組み、ただメジロを描くのではなく、資源や他の生物についても考えた作品を作ることができた。入賞者が続々とでるかもしれない。